

当院におけるシャントカルテの取り組み

医療法人社団スマイル クレア焼山クリニック

○宮園和也、鎌田正彦、原田美香、好川明美、永谷美子、藤井恵子、桐林慶

目的

血液透析患者のシャントカルテを作成し、活用できるように図る。また、それによるシャント関連情報のスタッフ間における共有状況の変化、穿刺に対する不安度の変化などの視点から、有用性を検討する。

方法

当院で血液透析中の全患者（75名）を対象にシャントカルテを作成し、シャントの構造、穿針・止血時の留意点、PTA履歴などの詳細な情報を写真と共に記載した。シャントカルテの導入一ヶ月後、シャント情報の共有状況、穿刺時の不安度の変化についてのアンケートを全スタッフ（看護師7名、臨床工学技士2名）に実施した。


(mean±SD)

シャントカルテ見本

患者氏名 XXXXXXXXXX 様 作成日 平成24年 / 4 / 3
 透析導入日 平成14年 / 9 / 17

Ptシャント自己管理状態
 可 / (不可)

コメント欄
 両視床梗塞にて左上下肢不全麻痺あり。
 身の周りのことは妻にて行い、2回/W訪問看護の方の支援あり。HD日、訪問看護の日にてシャント管理をしている。



シャント部位 右上前 シャント種類 人工血管
 使用針 A 17 G AVF V 16 G AVF 固定テープ 優肌絆
 シャント作成日 平成19年 / 11 / 1 止血方法 止血クランプ
 PTA施行日 ① 平成23年 / 8 / 29 腋窩、鎖骨下静脈
 ② 平成23年 / 5 / 27 腋窩、上腕中部
 ③ 平成19年 / 11 / 22 血栓溶解術、PTA

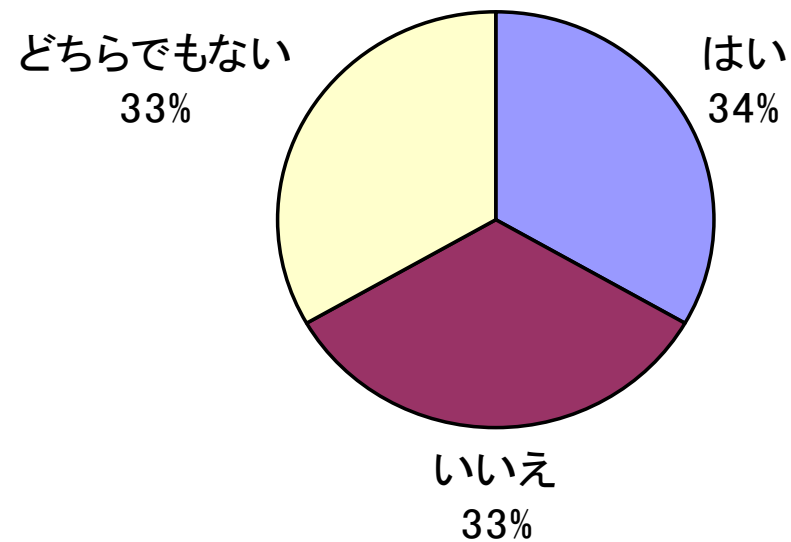
	走行	深さ	太さ	硬さ
動脈側	直・蛇行・複雑	浅・普通・深	細・普通・太	軟・普通・硬
静脈側	直・蛇行・複雑	浅・普通・深	細・普通・太	軟・普通・硬

備考欄
 H14.9.29 左前腕内シャント作成
 H19.7.10 右前腕内シャント作成
 止血クランプ5分にて、その後スタッフによる止血確認。

- ・穿刺時などの業務中にスムーズに確認できるように写真を大きくする。
- ・穿刺の向き、使用針の種類が判別し易いように、写真をカラーにする。
- ・AV逆接続の防止の為、A側、V側の写真にカラーの矢印を追加する。
- ・PTAの履歴、患者様ご自身でのシャント管理情報を簡単に確認できるようにコメント欄を設置する。
- ・備考欄に上記以外の情報を記入して、患者様の情報を補強する。

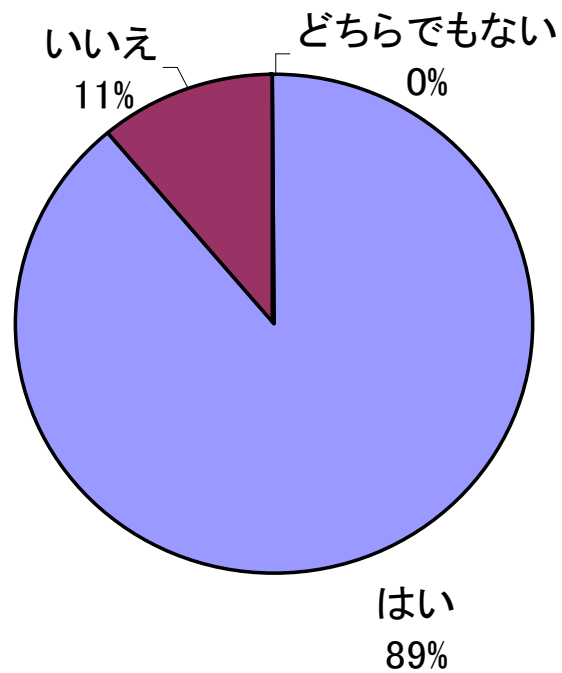
アンケート結果（1）

シャントカルテ作成以前に穿刺に対しての不安はありましたか？



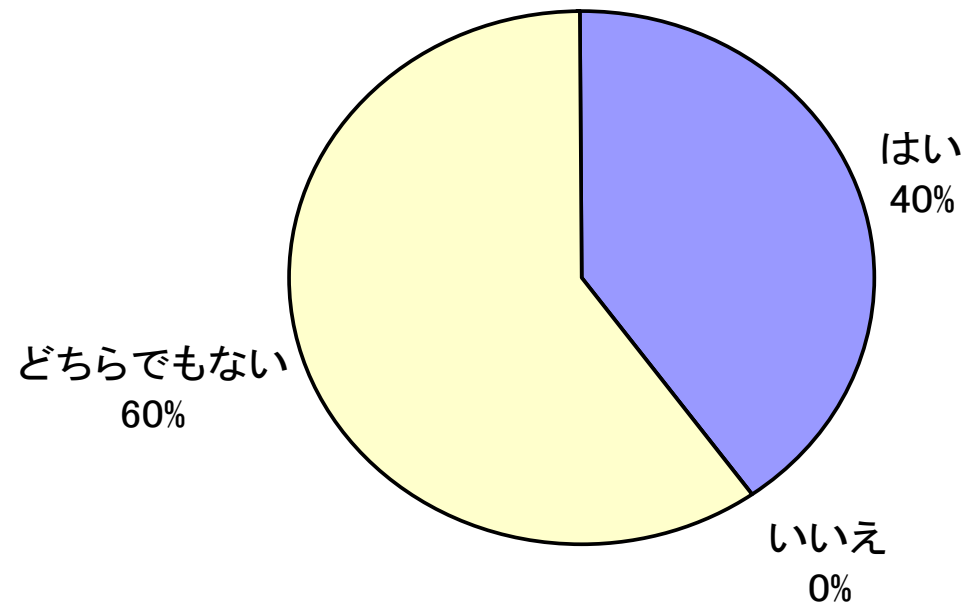
アンケート結果 (2)

穿刺部位や向き決定に役立ちましたか？



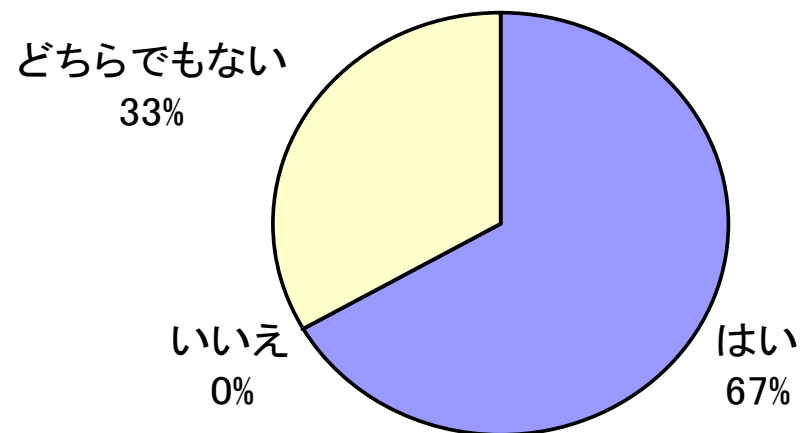
アンケート結果 (3)

患者のシャント情報は把握していましたか？



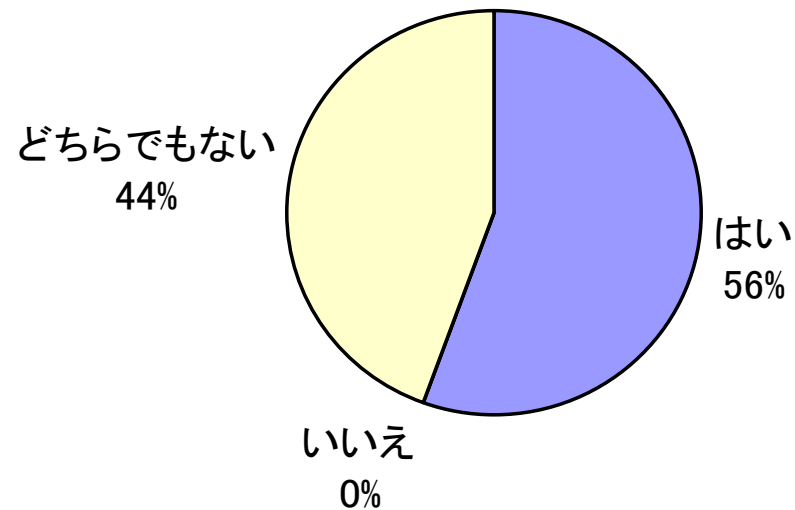
アンケート結果（4）

シャントカルテ利用により自分の知識以上の
の情報を得ることはできましたか？



アンケート結果 (5)

シャントカルテ作成により穿刺に対する不安は減少しましたか？



結 果

シヤントカルテ作成以前の穿刺に対する不安は全スタッフ中3割に認められ、作成後の穿刺に対する不安軽減は全スタッフ中5割であった。シヤントカルテの導入による関連情報の共有については6割以上が改善したと答えた。

考 察

当院では透析従事年数の比較的長いスタッフが多い為、シャントカルテ導入以前から穿刺に対する不安は少なかった。そのため、全般的にはシャントカルテ作成による不安軽減はあまり認められなかったと思われる。しかし、スタッフが個々に把握していたシャント情報を共有できたことで、特に新人スタッフの不安軽減、患者様の情報把握が認められた。また新患、穿刺困難な患者様のシャント等に対する穿刺の不安は全般的に軽減した。

結 語

シヤントカルテは、シヤント関連情報をスタッフ間で共有する上で有用である。